

## 1 課題研修

### (1) 研修主題

友達と関わりながら、自分の考えを深める児童の育成（2年目）  
～考えの交流を図り、自らの成長を実感できる支援の在り方～

### (2) 主題設定の趣旨

昨年度は、研修主題を「友達と関わりながら、自分の考えを深める児童の育成～考えの交流を図るための支援の在り方～」とし、友達の考えを聞き、それにつなげて考え話し合う中で、自分の学びを深め、成長を実感することができるような支援の在り方について研修に取り組んだ。

その結果、次のような成果が得られた。

- ・ 児童の思考にずれを生じさせる課題を設定することによって、児童の活発な関わりが生まれ、主体的に問題解決をしようとする姿につながった。
- ・ 友達の共感を得ることにより、考えに自信をもち、さらに、自分の考えを明らかにして深めていこうとする意欲を示すようになった。
- ・ イメージ図やホワイトミニボードなどのツールを使うことで、考えを視覚的に表すことができ、考えの類似点や相違点を見付けながら、友達の考えとつなげる話し合い活動ができるようになった。

しかし、一方で、子供同士で考えを練り上げることができるような板書の構造化が不十分だったり、指名の順番や切り返しの発問が不適切で、関わりがもてる児童だけの話し合いになったりすることがあった。また、考えを伝え合ったり深めたりするためのペア学習やグループ学習が効果的ではなかったという点で課題が残った。

そこで、今年度も研究主題を継続し、児童が豊かに友達と関わりながら自分の考えを深めることができるような教師の支援の在り方について研修を進めていく。さらに、今年度は、児童が進んで自分の思いや考えを発言するための指導の工夫、「なるほど」「分かった」「できた」など自らの考えの深まりや変容を実感できるような支援の在り方についても探っていく。そうすることで、子供が考えを練り上げる楽しさを味わわせ、友達と関わることを通して自らの成長を実感することができるように研修を進めていく。

### (3) 研修の視点と内容

視点1 友達と関わりながら、自分の考えを深める学習過程の工夫と支援

- ・ 主体的に学び合う単元構想の工夫やねらいに迫る学習課題の工夫
- ・ 自分の考えをもつための工夫（発問、書く活動）
- ・ 必要感のある話し合いの場の設定（話し合いの場面、活動形態）
- ・ 考えの交流の仕方を身に付けるための指導の工夫（学年に応じた話型、聞き方）
- ・ 考えの共有を図るための支援（指名の順番、発問、問い返し、板書、考えの可視化）
- ・ 進んで自分の思いや考えを発言するための支援（共感的に認め合う学習集団、発言の機会の充実、考えを認める教師の声かけやノートの朱書き、ペアやグループ学習）

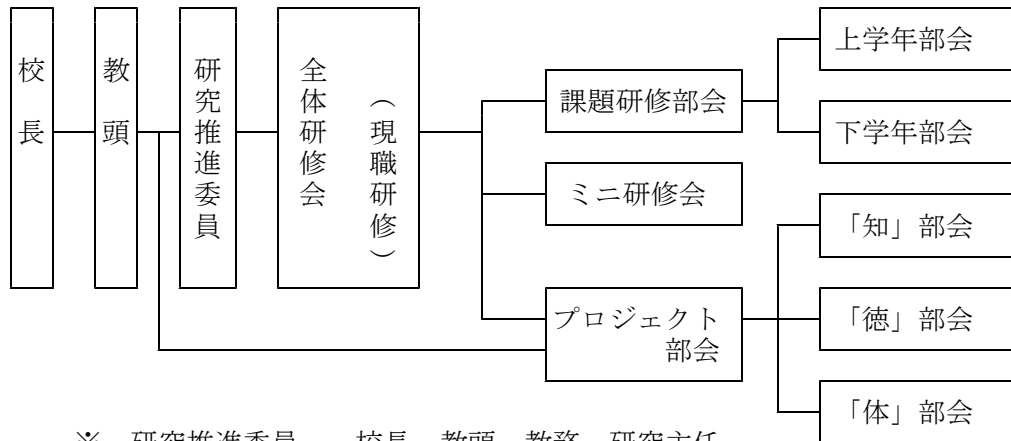
視点2 考えの深まりが実感できるための工夫

- ・ 考えを深め、自他のよさを認め合うことができる終末の工夫  
(学びを書く、互いのよさや感想を伝え合う、ノート指導、学習カードの累積)
- ・ 学習の成果を確認できる振り返りの場の工夫  
(まとめの明確化、適応問題、子供による自己評価、活用場面の考察)

(4) 研修の方法

- ・ 授業の事前研究、及び授業観察を全体で行い、視点に沿って協議し主題解明を図る。
- ・ 課題研修部会は上・下学年部会に分け、指導案検討会を上・下学年部会で適宜開く。
- ・ プロジェクト部会は、アクションプランと対応する「知」「徳」「体」部会の3部会で構成し、学校評価をもとに部会をもち、課題の解決・改善に当たる。
- ・ 授業研究では視点を絞って協議し、成果と課題を明らかにして指導の改善に努める。
- ・ 実践の記録、教材資料を累積し、児童の変容を捉えながら研修の充実と改善を図る。
- ・ 進んで自分の思いや考えを発言するための基礎となる話す力・聞く力を、全教育活動の中で、学年に応じて段階的に育てる方法を研究する。
- ・ 各自の専門分野を生かして、短時間の「ミニ研修」を年間を通して行い、教員としての資質・能力を高める。

(5) 研修の組織



※ 研究推進委員……校長、教頭、教務、研究主任

(6) 部会構成

課題研修部会	上学年部会……○塚原、片野、川端、松尾、杉山 下学年部会……○永井、川口、小嵐、浅野、小栗
プロジェクト部会	「知」部会……○塚原、小嵐、小栗 「徳」部会……○永井、川端、片野、川口 「体」部会……○浅野、松尾、杉山 ※ 必要に応じて部会を開く。
ミニ研修会	専門性を生かした全員参加の研修

(7) 年間研修計画

	課題研修	現職研修
4	・年間研修計画の立案 ・研修主題・内容・方法等の検討、共通理解	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ○ミニ研修会                      ○プロジェクト部会による研修                 </div>
5	・教材研究と授業設計への取組	
6	○授業研究（4年） ○授業研究（3年）	・家庭学習の取組の方向性 ・危機管理研修 ・評価に関する研修 ・Q-U分析①（5月） ・救命救急講習会 ・プロジェクト部会① （学校評価による見直し）
7	○授業研究（1年）	
8	・1学期の成果と課題 ・校内授業研究の教材研究、指導案検討 ・学校訪問研修の教材研究、指導案検討	
9	○授業研究（6年）	・特別支援教育研修 ・生徒指導研修 ・Q-U分析②（11月）
10	○学校訪問研修10／17 ○授業研究（あおぞら級）	
11	○授業研究（2年） ○授業研究（5年）	
12	・2学期の成果と課題	・プロジェクト部会② （学校評価による見直し） ・教育計画の見直し
1	・「研究のまとめ」作成	
2	・本年度の研修の成果と課題 ・次年度の研修構想と方向付け	
3	・次年度の研修計画立案、検討	↓

2 現職研修

(1) 研修の重点

学校教育目標の実現を目指して計画的に研修を推進するとともに、内容や方法を工夫して実践的な指導力を高める研修に努め、教員としての資質・能力を高める。

(2) 研修の手立て

- ① 学級運営や生徒指導に関する事例研究及び実技研修を行い、指導の改善に努める。
- ② 特別支援教育、情報教育、危機管理に関する研修等、今日的な課題についての研修の機会を充実する。
- ③ 個人研修や関係諸機関における研究等の成果について、ミニ研修会等を通じて資料や情報を共有し研修の活性化を図る。
- ④ 職員室等で互いの意見を交換し、OJTの機能を生かして互いに学び合えるような職場環境づくりに努める。

(3) 現職研修計画

上記年間研修計画による。